

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	履修単位数	2単位	履修学年	1年次
授業形態	一斉授業						
履修条件	特になし						
使用教科書	『高等学校 改訂版 世界史A』（第一学習社）						
副教材等	適宜プリント等を配付						
授業担当者	齋藤 利彦						

### 1 学習目標

近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

### 2 指導のねらい

- ・わが国の歴史との関連付けを重視しながら、諸地域世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色について理解と認識を深める。
- ・細かな事象や高度な事項・事柄を深く学ぶよりも、基本的な事項・事柄を精選して関心・意欲を育て、思考力と知識技能を身に付けさせる。

### 3 指導計画（70時間）（50分授業）

▼前期〔34時間〕	
第1編 世界史へのいざない	(4時間)
第2編 世界の一体化と日本	
第1章 ユーラシアの諸文明	
1 東アジア～4 西アジア	(10時間)
5 ヨーロッパ～9 ユーラシアの陸の交流	(6時間)
第2章 結びつく世界と近世の日本	
1 清と東アジア～6 オスマン帝国とサファヴィー朝	(7時間)
7 ヨーロッパの「大航海時代」～13 科学革命と啓蒙思想	(7時間)
▼後期〔36時間〕	
第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成	
1 農業社会から工業社会へ～6 大西洋をはさんだ革命	(8時間)
7 ウィーン体制～12 アメリカ合衆国の膨張	(7時間)
第4章 アジア諸国の変貌と近代の日本	(7時間)
第3編 地球社会と日本	
第1章 帝国主義の時代	(5時間)
第2章 急変する現代社会	(3時間)
第3章 世界平和と戦争	
1 第一次世界大戦～5 東アジアの民族運動	(6時間)

教科名	地理歴史	科目名	世界史 A	授業担当者名	齋藤 利彦
-----	------	-----	-------	--------	-------

#### 4 課題・提出物等

- ・不定期で小テストを実施する。
- ・各学期末にノート・ファイルを提出させる。

#### 5 主な評価の方法

- ・授業中の取組（授業態度、学習活動への参加意欲・態度、授業中の発言）
- ・ノート・プリント・学習活動の提出物・努力の跡
- ・小テスト
- ・定期考査

#### 6 評価の観点

関心 ・ 意欲 ・ 態度	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとしている。
思考 ・ 判断 ・ 表現	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
資料 活 用 の 技 能	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり、図表にまとめたりしている。
知識 ・ 理解	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。

教科名	地理歴史	科目名	日本史A	履修単位数	3単位	履修学年	3年次
授業形態	一斉授業						
履修条件	特になし						
使用教科書	『高等学校 改訂版 日本史A 人・暮らし・未来』（第一学習社）						
副教材等	適宜プリント等を配付						
授業担当者	齋藤 利彦						

### 1 学習目標

我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

### 2 指導のねらい

我が国の歴史の展開について、特に近代社会が成立し発展する過程に重点をおいて考察し、世界史的な視野に立って理解させる。

### 3 指導計画〈105時間〉（50分授業）

#### ▼前期〔51時間〕

第1部 私たちの時代（4時間）

第2部 近現代の日本と世界

第1章 近代国家の形成と国際関係の推移

第1節 近代への胎動（10時間）

第2節 開国と幕末の動乱（11時間）

第3節 近代国家の形成（15時間）

第4節 国際関係の推移と近代産業の発展（11時間）

#### ▼後期〔54時間〕

第2章 両大戦をめぐる国際関係

第1節 第一次世界大戦と日本（11時間）

第2節 第二次世界大戦と日本（13時間）

第3章 現代の日本と世界

第1節 日本の再出発（11時間）

第2節 独立後の政治と経済の発展（8時間）

第3節 現代の日本と世界（11時間）

教科名	地理歴史	科目名	日本史 A	授業担当者名	齋藤 利彦
-----	------	-----	-------	--------	-------

#### 4 課題・提出物等

- ・ 不定期で小テストを実施する。
- ・ 各学期末にノート・ファイルを提出させる。

#### 5 主な評価の方法

- ・ 授業中の取組（授業態度、学習活動への参加意欲・態度、授業中の発言）
- ・ ノート・プリント・学習活動の提出物・努力の跡
- ・ 小テスト
- ・ 定期考査

#### 6 評価の観点

関心・意欲・態度	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題に対する意識を高め、意欲的に考察・追究しようとしている。
思考・判断表現	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見出し、我が国の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界史的視野に立ち多面的・多角的に察し、その過程や結果を適切に表現している。
資料活用 の技能	近現代史に関する我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
知識・理解	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開と生活・文化の地域的特色についての基本的事柄を理解し、その知識を身に付けている。

教科名	公民	科目名	現代社会	履修単位数	3単位	履修学年	2年次
授業形態	一斉授業						
履修条件	特になし						
使用教科書	『改訂版 高等学校 現代社会』（数研出版）						
副教材等	適宜プリント等を配付						
授業担当者	齋藤 利彦						

### 1 学習目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

### 2 指導のねらい

現代社会の基本的な問題について、主体的に考え判断する力を養い、良識ある公民として必要な態度を育てる

### 3 指導計画（105時間）（50分授業）

#### ▼前期〔51時間〕

- 第1編 私たちの生きる社会
  - 第1章 地球環境問題 (9時間)
  - 第2章 資源・エネルギー問題 (9時間)
  - 第3章 生命をめぐる問題 (9時間)
  - 第4章 情報をめぐる問題 (9時間)
- 第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方
  - 第1章 青年期と自己の形成 (15時間)

#### ▼後期〔54時間〕

- 第2章 現代の民主政治と政治参加の意義 (20時間)
- 第3章 現在の経済社会と経済活動のあり方 (20時間)
- 第1章 国際社会の動向と日本の役割
- 第3編 とともに生きる社会をめざして（課題探求編）
  - 第1章 課題探求の観点 (6時間)
  - 第2章 課題探求・研究の手引き (8時間)

教科名	公民	科目名	現代社会	授業担当者名	齋藤 利彦
-----	----	-----	------	--------	-------

#### 4 課題・提出物等

- ・ 不定期でプリントを配布し復習課題を課す。
- ・ 各定期考査後にノート・ファイルを提出させる。

#### 5 主な評価の方法

- ・ 授業中の取組（授業態度、学習活動への参加意欲・態度、授業中の発言）
- ・ ノート・プリント・学習活動の提出物・努力の跡
- ・ 復習プリント
- ・ 定期考査

#### 6 評価の観点

関心 ・ 意欲 ・ 態度	現代の社会と人間に対する事柄について関心を高め、意欲的に課題を追究している。
思考 ・ 判断 ・ 表現	現代の社会と人間に関わる事柄から課題を見出し、広い視野に立って多角的、多面的に考察し、公正に判断している。
資料 活 用 の 技 能	現代の社会と人間に関わる事柄について諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。
知識 ・ 理解	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

教科名	公民	科目名	政治・経済	履修単位数	3単位	履修学年	3年次
授業形態	一斉授業						
履修条件	特になし						
使用教科書	『改訂版 政治・経済』（数研出版）						
副教材等	適宜プリント等を配付						
授業担当者	齋藤 利彦						

## 1 学習目標

広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関連する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

## 2 指導のねらい

政治や経済の基本的な概念や理論について理解を深めさせるとともに、社会に関する健全な判断力を育成する。

## 3 指導計画〈105時間〉（50分授業）

### ▼前期〔51時間〕

#### 第1編 現代の政治

##### 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法

第1節 民主政治の基本原則（10時間） 第2節 日本国憲法と基本的人権（11時間）

第3節 日本の政治機構（10時間） 第4節 政治参加と民主政治の課題（10時間）

##### 第2章 現代の国際政治

第1節 国際政治の動向（10時間）

### ▼後期〔54時間〕

#### 第2章 現代の国際政治

第2節 国際社会の課題と日本の役割（9時間）

#### 第2編 現代の経済

##### 第1章 現代経済のしくみと特質

第1節 経済活動の意義と経済体制（8時間） 第2節 現代経済のしくみ（10時間）

第2節 日本経済と福祉の向上（11時間）

##### 第2章 国民経済と国際経済

第1節 国際経済の動向（8時間） 第2節 国際経済の課題と国際協力（8時間）

教科名	公民	科目名	政治経済	授業担当者名	齋藤 利彦
-----	----	-----	------	--------	-------

#### 4 課題・提出物等

- ・ 不定期でプリントを配布し、復習課題を課す。
- ・ 各定期考査後にノート・ファイルを提出させる。

#### 5 主な評価の方法

- ・ 授業中の取組（授業態度、学習活動への参加意欲・態度、授業中の発言）
- ・ ノート・プリント・学習活動の提出物・努力の跡
- ・ 復習プリント
- ・ 定期考査

#### 6 評価の観点

関心 ・ 意欲 ・ 態度	現代の政治・経済・国際関係に対する関心を高め、それに関する諸課題を発見し、意欲的に考察し、追究しようとしている。
思考 ・ 判断 ・ 表現	現代の政治・経済・国際関係に関わる事柄から課題を見出し、その本質や特質、望ましい解決の在り方について多面的、多角的に考察し、公正に判断している。
資料 活 用 の 技 能	現代の政治・経済・国際関係に関わる諸資料を収集し、有用な情報を主体的に選択し活用するとともに、追究、考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。
知識 ・ 理解	現代の政治・経済・国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質および基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。

教科名	公民	科目名	倫理	履修単位数	3単位	履修学年	1年次
授業形態	一斉授業						
履修条件	特になし						
使用教科書	『倫理』（数研出版）						
副教材等	適宜プリント等を配付						
授業担当者	小杉 幹雄						

### 1 学習目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

### 2 指導のねらい

青年期における自己形成の課題、及び人間としての在り方生き方について理解と思索を深め、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

### 3 指導計画〈105時間〉（50分授業）

#### ▼前期〔51時間〕

第1編 現代に生きる自己の課題 (5時間)

第2編 人間としての自覚

第1章 西洋思想の源流 (14時間)

第2章 東洋思想の源流 (10時間)

第3編 現代に生きる人間の倫理

第1章 西洋近代の思想 (14時間)

第2章 現代の思想 (8時間)

#### ▼後期〔54時間〕

第4編 国際政治に生きる日本人としての自覚

第1章 日本の伝統思想と東洋思想の受容 (18時間)

第2章 西洋思想の受容と日本の思想 (18時間)

第5編 現代の諸課題と倫理 (18時間)

教科名	公民	科目名	倫理	授業担当者名	齋藤 利彦
-----	----	-----	----	--------	-------

#### 4 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不定期で小テストを実施する。</li> <li>・ 各学期末にノート・ファイルを提出させる。</li> </ul>
--

#### 5 主な評価の方法

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中の取組（授業態度、学習活動への参加意欲・態度、授業中の発言）</li> <li>・ ノート・プリント・学習活動の提出物</li> <li>・ 小テスト</li> <li>・ 定期考査</li> </ul>
--

#### 6 評価の観点

関心 ・ 意欲 ・ 態度	各単元の学習内容のポイントを意識して、授業中の諸活動（説明を聞く、ノートをとる、課題を考えるなど）に取り組んでいる。
思考 ・ 判断 ・ 表現	各単元の学習内容の意味と現代の自分たちとの関わりを自分で考えることができる。
資料 活 用 の 技 能	自分の知識や考え（意見・判断）を場面に応じて適切に表現することができる。
知識 ・ 理解	各単元の学習内容を相互に関係するものとして体系的に理解し、覚えることができる。